

ROSEリポジトリいばらき（茨城大学学術情報リポジトリ）

Title	斎藤毅氏(国会図書館副館長)との対談から
Author(s)	[記載なし]
Citation	読書・作文(2): 12-12
Issue Date	1971-10-31
URL	http://hdl.handle.net/10109/8633
Rights	

このリポジトリに収録されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作権者に帰属します。引用、転載、複製等される場合は、著作権法を遵守してください。

お問合せ先

茨城大学学術企画部学術情報課（図書館） 情報支援係
<http://www.lib.ibaraki.ac.jp/toiawase/toiawase.html>

齋藤毅氏（国会図書館副館長）との対談から

(46・9・4)

山口―作文関係の資料あさりにきましたので、久しぶりお目にかかりたいと思ひまして……

齋藤―作文教育の復活をめざして大いにやっております。ばいいですね。私など、この頃痛感するのは、実用文の書き方を、もっと訓練してほしいということ。山口―文学教育としての作文も結構だが、言語教育としての面を重視すべしという声も高いのです。

齋藤―そうあるべきですね。起案文など、役所や会社でそれぞれやり方がありますが、何を言っているのかがはっきり分らないのでは困りますからね。

山口―今の作文教育は、論理正しくということを一に考えているのですけど……

齋藤―そして、こういう組織の中の人間という点から、文章を書くことで意思表示をしているのももちろんですが、書き示すことが仕事になっているということの意味をよく理解してもらわねばなりません。

山口―なるほど、縦にも横にもすべて文書で関連し合っているのですから、おっしゃる通りですね。学校でも一段とやり方を工夫しなくてはなりません。

齋藤―手紙など、最も端的に文章のあり方を求めています。

す。日本の古い書簡文には型があつて、その中で、大事な用件を的確に表現していましたが、この頃の手紙文はその点駄目ですね。

山口―全くその通りだと思います。パターンというものを教えることが必要です。

齋藤―外国の手紙文も皆一定の形式がありますよ。そして、電話の話し方なども同様ではないでしょうか。

山口―あなたは陸軍教授時代、どんなやり方をしておられましたか。

齋藤―それはもうきびしくやったものです。将校の資格として、正確で達意の文が書けるようにということは大切なことでした。

山口―作文教育と読書指導との関係について、色々の人にお考えを聞いてみようと思ひますが……

齋藤―私は国語教育の中の古典学習の意味を重く見るものです。若い間になるべく多くの古典文学に接して、できるだけ深くその中に味到することは、人間を作る上で重要だと思います。人々に接しながらいつも思うのは、教養ということの有り無しでその発言の違いがでてきます。その意味でも、国語教師の任務は重大だと思ひます。忙しい中でも、自己研修を怠って居れませんから、大変だと思ひます。